

慰安婦問題特集 3氏に聞く

慰安婦問題に詳しい3人の専門家に特集紙面の記事を事前に読んでいただきました。今回の特集への感想とともに、この問題をどう考えるべきかを論じてもらいました。

米国からの視線

慰安婦問題の解決を促している米国の識者はどう見ているのか。歴史学と国際政治学の研究者2人に話を聞いた。

女性への暴力 国際社会は注視

米コロンビア大学教授(日本近現代史) キャロル・グラクさん



41年生まれ。米国における日本近現代史、東洋史研究の第一人者で、著書に「歴史を考へる」など。

慰安婦問題が世界的な注目を集めていることを理解するために、三つの観点から考えてみたい。第一に、慰安婦は国際法の分野で女性の権利侵害の歴史的な実例として1990年代から広く言及されてきた。ボスニア紛争などで起きた大量虐殺と集団レイプは、98年に合意された国

際刑事裁判所の設立に影響を与え、レイプや強制売春は人道に対する罪として国際法のもて裁かれるようになった。国際法の文獻で慰安婦が第2次大戦中の性的犯罪として触れられるのは通常のこととなり、慰安婦問題は女性の権利に関わる国際的問題となった。NGOや女性団体の活動が拡大し、その国際的な協力が飛躍したことが一つの原因だ。韓国では80年代に始まり、日本の女性活

動家たちが加わった。90年代にほかのアジア諸国と韓国系の米国人やカナダ人が声を上げるようになった。慰安婦問題は90年代の米国でいゆる「アイデンティティ・ポリティクス」の一部となり、米国の議会が日本政府に賠償と謝罪を求め、韓国政府が日本政府と交渉しないことを遺憾とした。これを機に、韓国

政府は日本政府に対してだけでなく、ニューヨークやジュネーブの国連機関を通じて国際社会に慰安婦問題をアピールしている。国連規約人権委員会は今年7月、日本政府に元慰安婦への謝罪と賠償、戦中の慰安婦制度の調査を勧告した。

この25年で、慰安婦と女性の権利に関する世界の考え方が変わった。日本の政治家が「強制連行を裏付ける公文書は見つかった」といった発言を繰り返すと、世界中の反感を引き起こすことになる。米国で慰安婦の碑や像が増えつつあることはその一例だ。

「忘れない」と言い続けよう マイケル・モチヅキさん 慰安婦問題はもはや日韓問題ではなく、国際社会の問題である。慰安婦問題では、過去の失敗に反省を促す必要がある。米国にも歴史問題がある。私は、父も祖父も太平洋戦争中に強制収容された日系人だが、日系人収容所問題での米国の対応を誇りに思う。80年代に連邦議会が謝罪をし、父は大統領署名の謝罪文と小切手を受け取った。直後の会合でミネ

秦郁彦さん 現代史家



32年山口県生まれ。専門は日本現代史。拓殖大、千葉大、日本大教授を歴任。著書に「慰安婦と戦場の性」「南京事件」など。「文芸春秋」「中央公論」両誌の9月号でも、慰安婦問題についての論考を発表予定。

慰安婦問題の主要な争点は、官憲による組織的、暴力的な強制連行の有無と、慰安所における慰安婦たちの生活が「性奴隷」と呼ばれるほど悲惨なものだったか否かの2点に絞られる。政治的、国際的次元に波及したこともあり、論争は必ずしも決着してないが、二十数年にわたる慰安婦報道を振り返ると、慰安婦問題が、遅ればせながら過去の報道ぶりについて自己検証したことをまず、評価したい。

強制連行の有無 検証あいまい

このほど誤謬と誤報の多い記事は珍しいが、他のメディアが追従したこともあり、結果的に、当時の河野洋平官房長官が強制連行を認め、謝罪し、アジア女性基金を創設して元慰安婦たちに「償い金」を給付する路線が実現してしまっ

た。謝罪の言がないことには不満の人もいようが、画期的だと評価する人も多かつた。強制連行を根拠づける唯一の証言だった吉田証言を否定しながら、中国やインドネシアで戦犯裁判にかかった命令違反や個人犯罪の教訓を引いたり、慰安所での「強制」や「軍の関与」を強調したりして、「朝日新聞の問題意識は、今も変わっていない」とあいまいに逃げてしまっただけだ。

朝日新聞は今回の特集で、女性たちが意思を反して慰安所にさせられたという強制性に問題の本質があることを明確にした。軍・官憲による暴力的な強制連行がなければ日本政府に責任はないという、国際的に全く通用しない議論がいまだにあることを考えれば、改めて問題の所在を明示したことは意義があった。過去の報道について、訂正や誤った経緯の検証をしたことも、慰安婦問題を理解する上で重要だ。

吉田清治氏の証言については、朝日新聞をはじめ複数のメディアが取り上げていた。証言の信用性が疑われるようになり、強制連行は虚構だと一部主張が虚構だと一部主張を勢いつかせた。このように、慰安婦問題自体が虚構だと一部主張を勢いつかせた。このように、慰安婦問題自体が虚構だと一部主張を勢いつかせた。

問題を感じたのは、今回の紙面を読んでも、慰安婦問題の何が課題で、何をやる必要があるのか、朝日新聞が考える解決策が見えてこないことだ。被害者に寄り添う姿勢が紙面からうかがえない。

2日目の日韓関係に関する記事は、両政府の応酬に末に慰安婦問題が浮き出たことについて、記者は「慰安婦問題が浮き出たことについて、記者は「慰安婦問題が浮き出たことについて、記者は」

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

吉見義明さん 中央大学教授



46年山口県生まれ。専門は日本近現代史で主な研究テーマは戦争責任問題と民衆の戦時・戦後体験。90年代から慰安婦問題に取り組み、著書に「焼跡から」など。

問題を感じたのは、今回の紙面を読んでも、慰安婦問題の何が課題で、何をやる必要があるのか、朝日新聞が考える解決策が見えてこないことだ。被害者に寄り添う姿勢が紙面からうかがえない。

2日目の日韓関係に関する記事は、両政府の応酬に末に慰安婦問題が浮き出たことについて、記者は「慰安婦問題が浮き出たことについて、記者は」

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

小英二さん 慶応大学教授



62年東京都生まれ。専門は歴史社会学で、ナショナリズム、民主主義を中心に政治思想とその歴史を論じている。「単一民族神話の起源」「社会を変え」など。

問題を感じたのは、今回の紙面を読んでも、慰安婦問題の何が課題で、何をやる必要があるのか、朝日新聞が考える解決策が見えてこないことだ。被害者に寄り添う姿勢が紙面からうかがえない。

2日目の日韓関係に関する記事は、両政府の応酬に末に慰安婦問題が浮き出たことについて、記者は「慰安婦問題が浮き出たことについて、記者は」

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。

慰安婦問題が1990年代になって注目されたのは、冷戦終結、アジアの民主化、人権意識の向上、情報化、グローバル化などの潮流が原因だ。冷戦期の東アジア諸国は、軍事独裁政権の支配下にあり、戦争犠牲者の声は抑圧されていた。元慰安婦は、男性優位の社会で生き残る必要があった。80年代末の冷戦終結、韓国の民主化、女性の権利意識の向上などがあって問題が表面化した。韓国で力がつきました。韓国で力がつきました。